

寒川町総合計画 2040 第1次実施計画  
小・中学校グローバル教育推進事業

〈めざす子どもの姿〉

予測困難な時代にあって、情報技術の急速な進展に対応するとともに、多様化する世界を前に、互いの文化的違いや価値を受け入れ、尊重し、新たな関係性を創造することを目指す多文化共生社会の担い手となって、グローバル社会を生き抜く子どもたち

本事業を通じて育成すべき資質・能力

語学力(英語)  
情報活用能力  
コミュニケーション能力

主体性 積極性  
協調性 柔軟性

自国・異文化理解  
多様性の尊重

外国語教育の推進

- ◆ 外国人指導者の増員
- ◆ 外国人指導者の全校常駐配置
- ◆ 外国人指導者による授業外の取組
- ◆ 外国人指導者による英語イベントの開催
- ◆ 外国語教育推進リーダー研究会の実施

情報教育の推進

- ◆ 児童生徒1人1台のタブレット端末の整備
- ◆ 通信環境の整備
- ◆ ICTの効果的活用に係る授業研究の実施
- ◆ ICT活用に係る教職員研修の実施
- ◆ ICT支援員の配置

【社会的背景】

- 技術革新に基づく、国境を越えた「人・もの・情報」の移動が加速
- 予測困難な社会の変化や地球規模の課題
- 2030年までに全体の約49%の仕事が自動化
- 中小企業の海外現地法人が7年間で約2.5倍に増加(2015年)
- 在留外国人数が5年間で約1.2倍に増加(2017年)
- 訪日外国人旅行者数4年間で約3倍に増加
- 外国語教育の早期化・教科化・高度化と授業時数の増加

【町民のニーズ】

- 「外国人と友達になったり、外国のことをもっと知ったりしてみたい」小:68.8% 中:62.0%
- 「日本や自分の地域について、外国人にもっと知ってもらいたい」小:74.4% 中:52.7%
- 「英語の勉強は大切だと思う」中学校:81.3%
- 「英語の授業での学習は、将来、社会に出たときに役に立つと思う」中学校:81.3%
- 「学校の授業やそれ以外で、日常的に英語を使う機会が十分にあった」中学校:34.0%
- 「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したい」小学校:81.0% 中学校:71.9%

【ユネスコ憲章前文】

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない。相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、この疑惑と不信の為に、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代わりに、無知と偏見を通じて人種の不平等という教養を広めることによって可能にされた戦争であった。文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、かつ、すべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神を持って、果たさなければならない神聖な義務である。